

まえがき

利益相反とは何か。これまで、一般にはなじみの薄い言葉であった利益相反を、最近では、ときおり新聞紙上などで目にするようになってきた。利益相反とは、簡単にいうと、責任のある地位についている者の個人的な利益と職務上の責任が衝突している状況をいう。別のいい方では、公職にある者や企業の幹部などが、自分の職務上の行動や影響力によって個人的利益を得るかもしれないことを指しているともいわれる。

しかし、近年、利益相反は、公職者や企業幹部などよりもずっと広い範囲で問題になることが多くなってきた。中でも、医療の関係では、昔に比べればはるかに巨額の金が動くようになってきたことから、医師に関して利益相反が問題となることが急激に増大してきている。こう聞いて、すぐに思いあたる人がいるかもしれないが、最近、日本では臨床研究に伴う論文の不正が大問題になっている。これはまさに利益相反マネジメントをきちんとやらなかったことが一つの原因となって起こった問題であると考えられる。

あるいは、2011年の3.11東北地方太平洋沖地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所の重大事故も、土木学会が作成した「原子力発電所の津波評価技術」に関して利益相反問題が大きく関わっていたことが知られている。

日本の社会は内向きの社会で、規範は社会を構成する集団ごとに存在しており、我々日本人はそれに強く縛られている。そこでは、正義とか公正などという普遍的な価値よりも所属する集団の価値やその存続が優先されるということ、我々は日本の歴史や自らの体験によって学んできた。

そのような社会では、利益相反の状況を事前に回避し、問題の芽を摘んでおくことは本当に大事な意味を持つてくる。

これまで日本においても利益相反問題が原因となった悲劇的な状況が数多く繰り返されてきた。しかし、それだからこそ、日本の社会において問題を小さいうちに解消しておくことは、大問題の発生を予防するために欠くことができないと考える。我々一人ひとりがそのことを自覚するためにも、本書が少しでも役立つことを願っている。